

3 スポーツクラブ・同好会・チーム

3-1 スポーツクラブ・同好会・チームへの加入状況

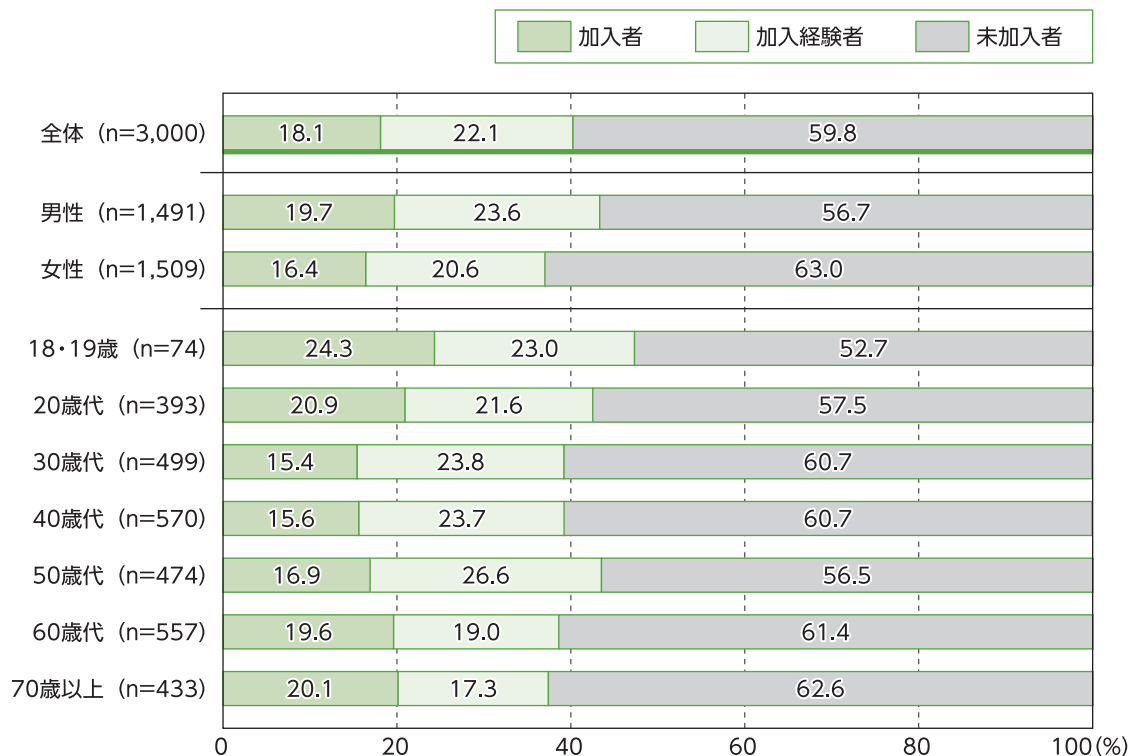
スポーツクラブや同好会・チーム（以下、スポーツクラブ）への加入状況をたずねた（図3-1）。「加入している」（加入者）は18.1%、「過去に加入していたが、現在は加入していない」（加入経験者）は22.1%、「これまでに加入したことはない」（未加入者）は59.8%であった。

過去10年間ににおけるスポーツクラブ加入率の年次推移をみると、全体では2006年18.4%、2008年20.6%、2010年18.8%、2012年19.7%、2014年20.0%、今回調査18.1%と、2014年調査から1.9ポイント減少したもの、ほぼ横ばいで推移している（図3-2）。

性別にみると、男性は2006年21.2%、2008年23.2%、

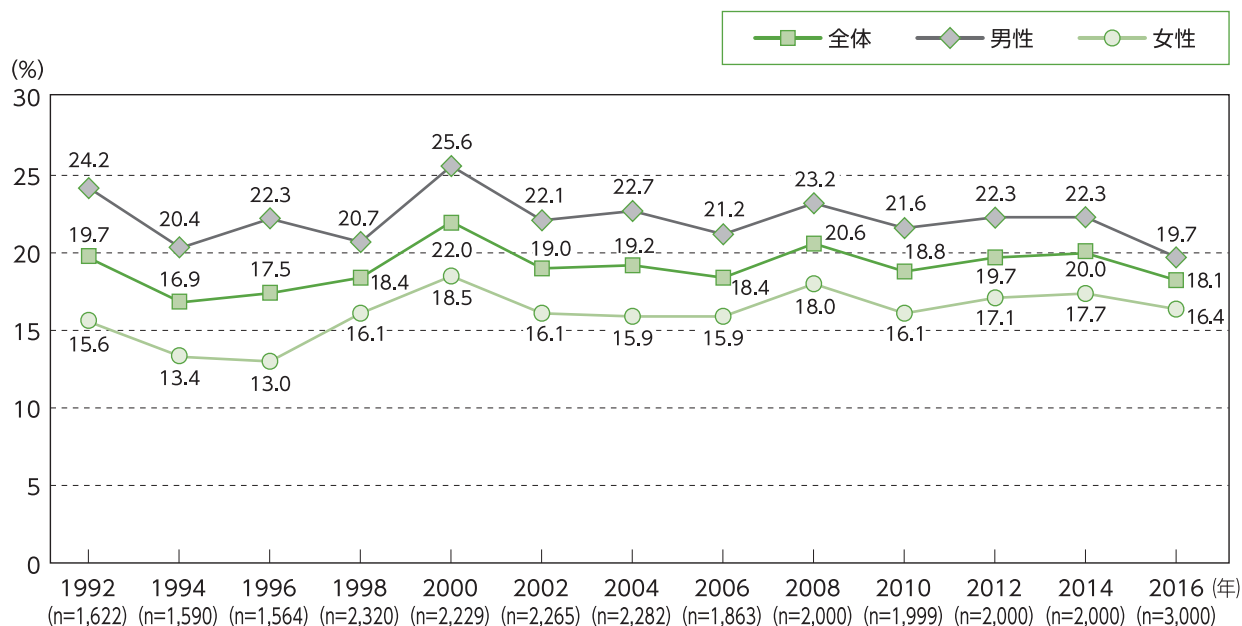
2010年21.6%、2012年22.3%、2014年22.3%、今回調査19.7%と、2014年調査から2.6ポイント減少した。女性は2006年15.9%、2008年18.0%、2010年16.1%、2012年17.1%、2014年17.7%、今回調査16.4%と、男性と同様に2014年調査から1.3ポイント減少している。男性の加入率が女性を上回る傾向は今回調査でも確認されたが、男女の加入率の差は徐々に小さくなっている。

運動・スポーツ実施レベル別にみると、「レベル0」と「レベル4」に大きな特徴がみられた（図3-3）。「レベル0」では加入者が0.5%とほとんど存在せず、未加入者の割合が83.3%と高い値を示した。一方、「レベル4」では加入者の割合が36.1%と最も高く、未加入者の割合は41.5%と最も低い。



【図3-1】 スポーツクラブ・同好会・チームへの加入状況（全体・性別・年代別）

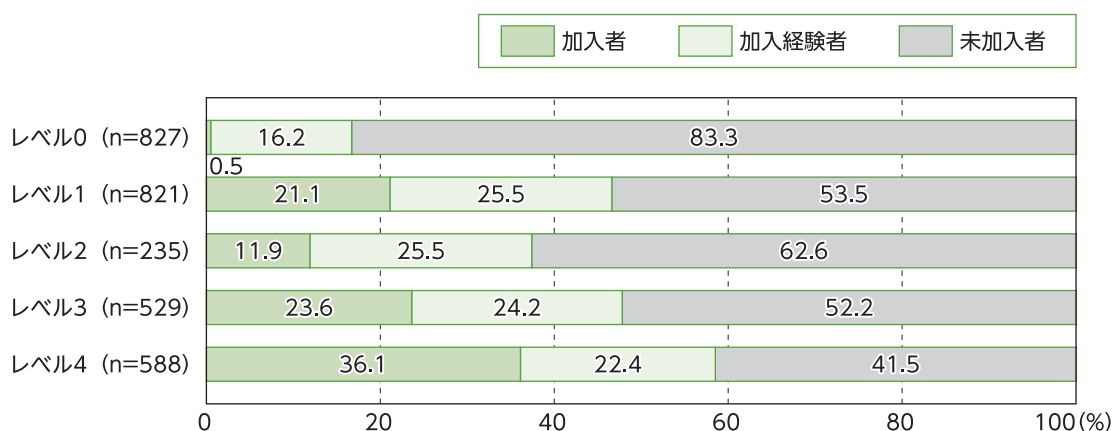
資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2016



【図3-2】スポーツクラブ・同好会・チームへの加入率の推移(全体・性別)

注) 2014年調査までは20歳以上を調査対象としているが、2016年調査は18・19歳を追加した。

資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2016



【図3-3】スポーツクラブ・同好会・チームへの加入状況(レベル別)

資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2016

3-2 スポーツクラブ・同好会・チームの形態

スポーツクラブ加入者について、加入しているスポーツクラブの形態をみた(図3-4)。全体では、「地域住民が中心となったクラブ・同好会・チーム」(地域住民が中心のクラブ)が32.7%と最も高く、次いで「友人・知人が

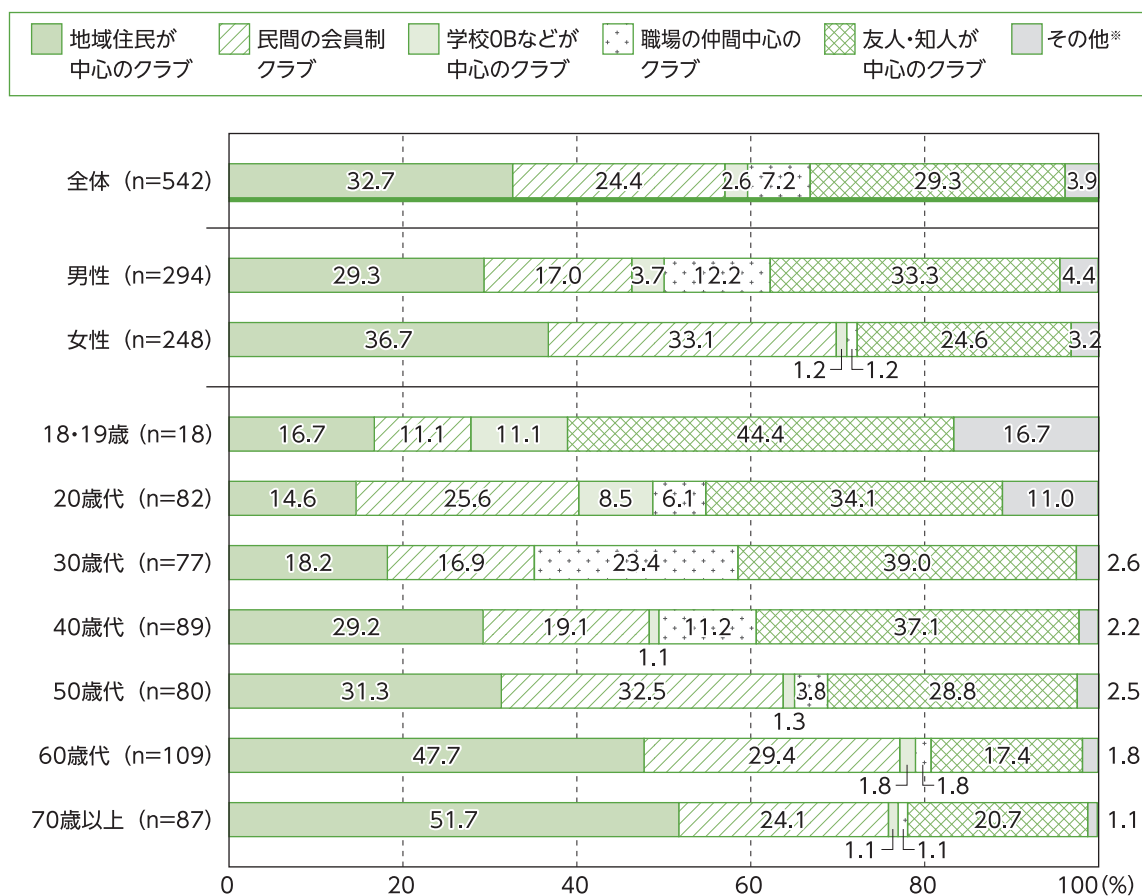
中心のクラブ・同好会・チーム」(友人・知人が中心のクラブ)が29.3%、「民間の会員制スポーツクラブやフィットネスクラブ」(民間の会員制クラブ)が24.4%となっている。

性別にみると、男性では「友人・知人が中心のクラブ」が33.3%と最も高く、「地域住民が中心のクラブ」29.3%、「民間の会員制クラブ」17.0%と続く。女性では「地域住民が中心のクラブ」が36.7%と最も高く、「民

間の会員制クラブ」33.1%、「友人・知人が中心のクラブ」24.6%と続き、男女で加入しているスポーツクラブに違いがみられる。また、男性では「職場の仲間を中心としたクラブ・同好会・チーム」（職場の仲間中心のクラブ）の加入率が12.2%であり、女性の加入率1.2%を11ポイント上回る。

年代別にみると、年代が上がるにつれて「地域住民が中心のクラブ」への加入率は高くなる。18・19歳16.7%、20歳代14.6%、30歳代18.2%と、30歳代までは2割に満たないものの、40歳代29.2%、50歳代31.3%と40～50歳代では3割前後、60歳代47.7%、70歳以上51.7%と60歳代以上では5割前後となる。一方、「友人・知人が中心のクラブ」は、概ね年代が上がるにつれて加入率が減少している。

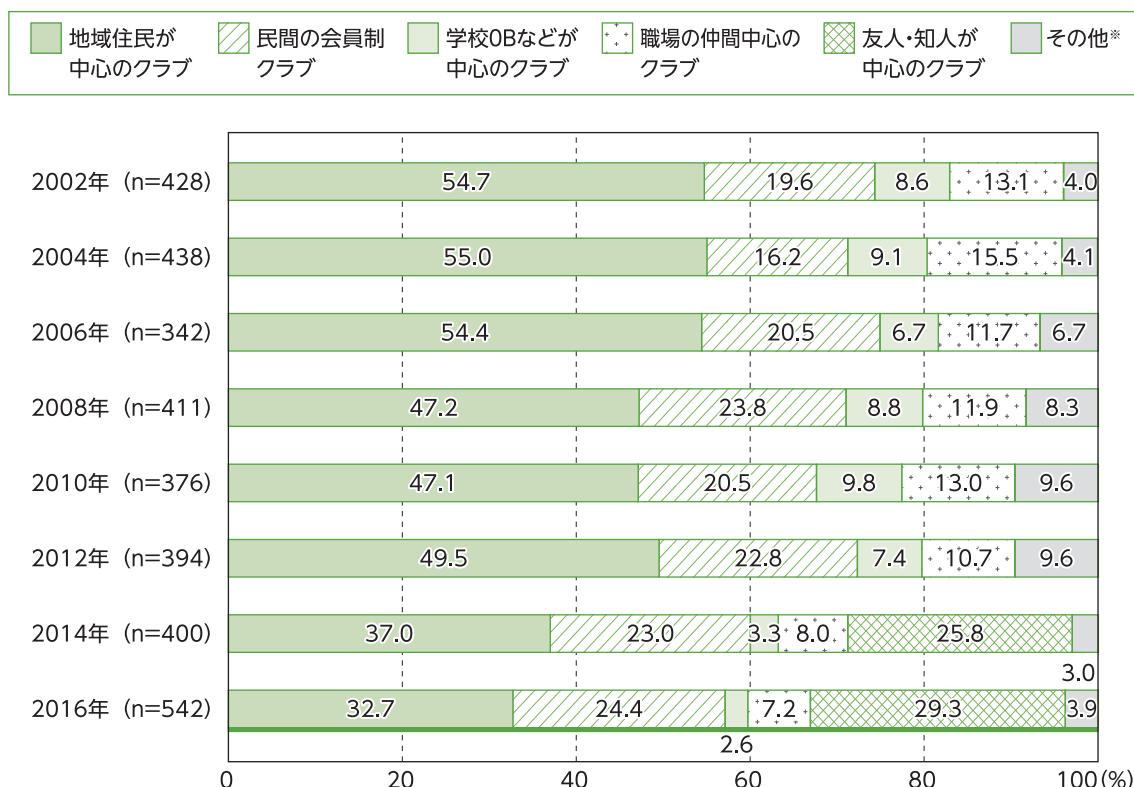
スポーツクラブへの加入形態を年次推移でみると、「地域住民が中心のクラブ」への加入率が最も高い傾向は変わっていないが、2002年から2012年にかけて5割前後で推移してきた加入率が2014年調査は37.0%、今回調査は32.7%と減少傾向が続いている（図3-5）。2012年から2014年にかけて「地域住民が中心のクラブ」の加入率が大幅に減少した要因は、2014年調査から選択肢に「友人・知人が中心のクラブ」を追加した影響と考えられる。今回調査は、2014年調査と同様の傾向であるものの、「地域住民が中心のクラブ」は4.3ポイント減少した一方で「友人・知人が中心のクラブ」は3.5ポイント増加し、両者の差は縮まってきている。次回調査では、加入しているスポーツクラブ・同好会・チームの形態について、加入率の順位に変動が出てくるのか、注目される。



【図3-4】 加入しているスポーツクラブ・同好会・チームの形態(全体・性別・年代別)

※その他:「学校のクラブ・サークル」「競技者の団体・クラブ」など

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2016



【図3-5】 加入しているスポーツクラブ・同好会・チームの形態の年次推移

※その他：「学校のクラブ・サークル」「競技者の団体・クラブ」など

注1) 「友人・知人が中心のクラブ」は2014年調査から新たに追加した選択肢。

注2) 2014年調査までは20歳以上を調査対象としているが、2016年調査は18・19歳を追加した。

資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2016

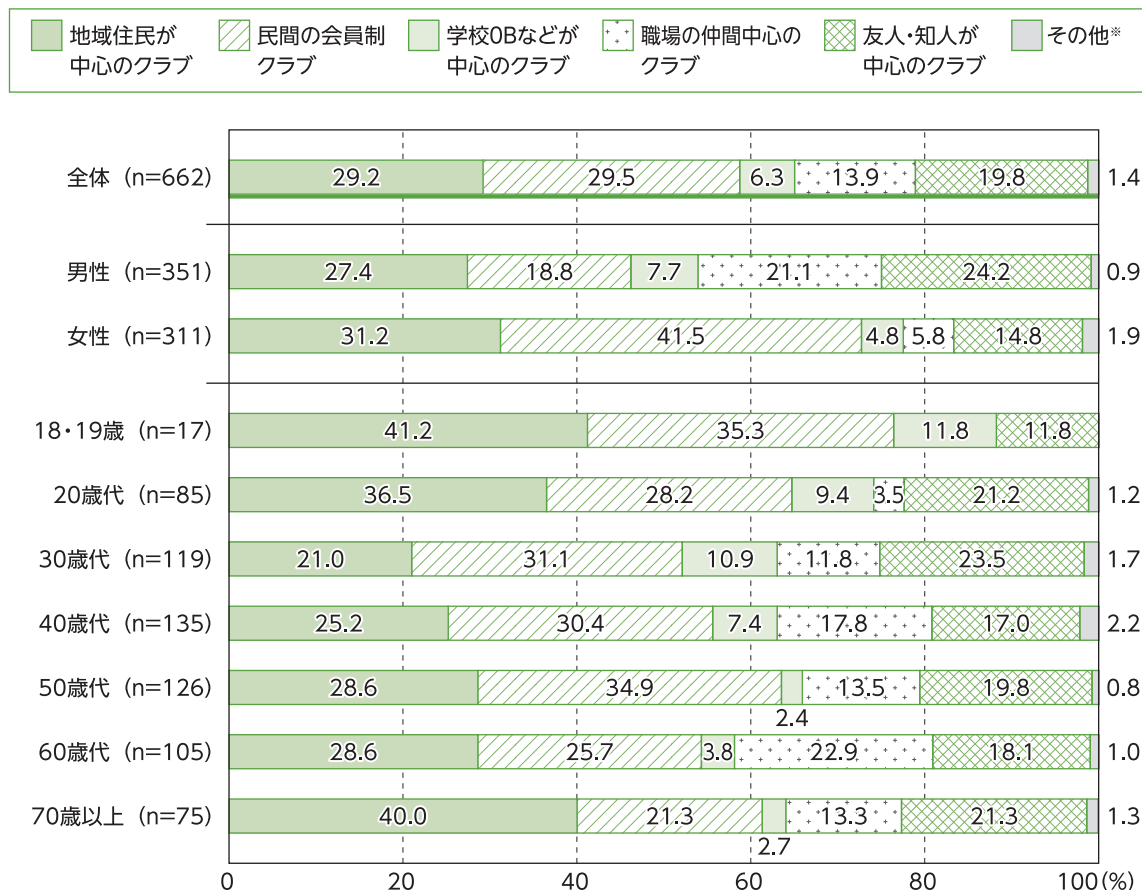
3-3 過去に加入していた スポーツクラブ・同好会・チーム

スポーツクラブ・同好会・チームに、過去に加入していたが、現在は加入していない者（加入経験者）に対して、過去に加入していたスポーツクラブの形態をたずねた（図3-6）。全体では、「民間の会員制クラブ」が29.5%で最も高く、次いで「地域住民が中心のクラブ」29.2%、「友人・知人が中心のクラブ」19.8%、「職場の仲間中心のクラブ」13.9%と続く。

性別にみると、男性は「地域住民が中心のクラブ」が27.4%で最も高く、「友人・知人が中心のクラブ」24.2%、

「職場の仲間中心のクラブ」21.1%と続く。女性は「民間の会員制クラブ」の41.5%が最も高く、「地域住民が中心のクラブ」31.2%、「友人・知人が中心のクラブ」14.8%と続く。女性は男性に比べて「民間の会員制クラブ」に加入していた経験がある者が多い。

年代別にみると、「地域住民が中心のクラブ」は18・19歳が41.2%と最も高く、20歳代36.5%、30歳代21.0%と減少するが、40歳代以降は年代が上がるにつれて加入経験率が高くなる。「民間の会員制クラブ」は18・19歳が35.3%、50歳代が34.9%と他の年代と比較して高く、「職場の仲間中心のクラブ」は60歳代の22.9%が最も高い点が特徴的である。



【図3-6】 加入経験者が過去に加入していたスポーツクラブ・同好会・チームの形態(全体・性別・年代別)

※その他：「学校のクラブ・サークル」「競技者の団体・クラブ」など

資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2016

3-4 スポーツクラブ・同好会・チームへの加入希望

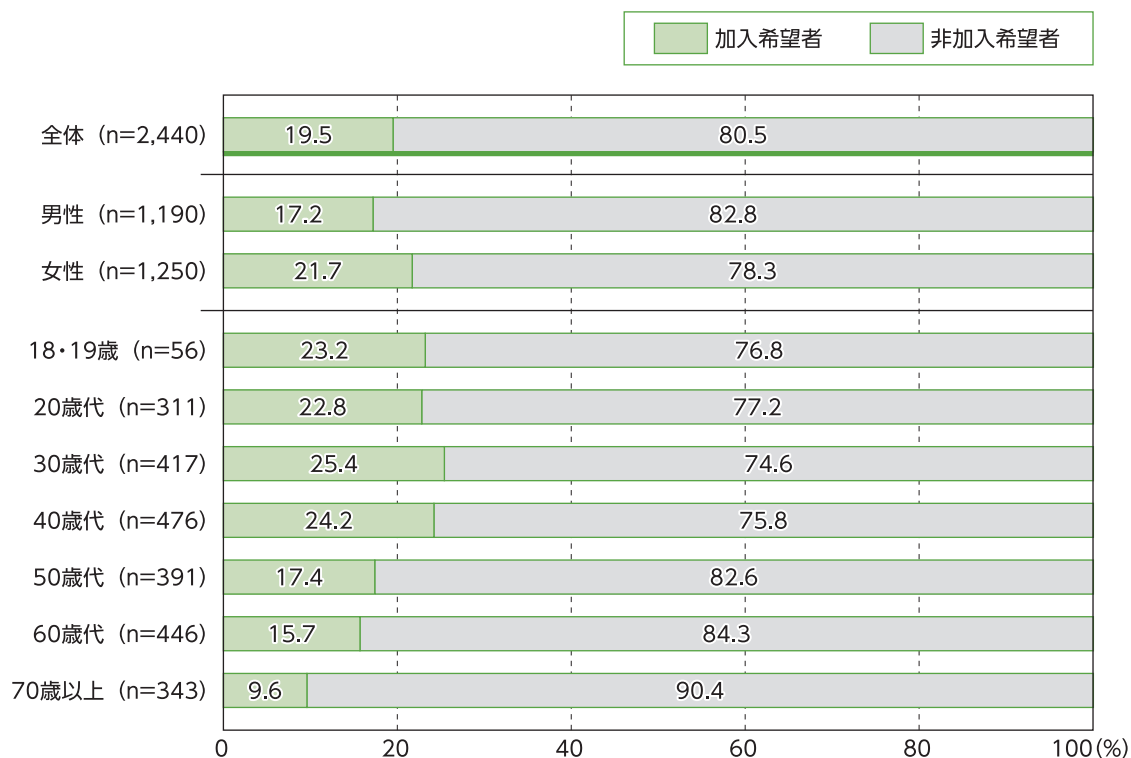
現在、スポーツクラブ・同好会・チームに加入していない者（加入経験者および未加入者）に、今後の加入希望をたずねた（図3-7）。全体では「加入したいと思う」（加入希望者）は19.5%であり、「加入したいと思わない」（非加入希望者）は80.5%であった。

性別にみると、加入希望者の割合は男性が17.2%、女性が21.7%であり、女性が男性を4.5ポイント上回り、この傾向は2010年調査以降同様である。

年代別にみると、加入希望者の割合は30歳代が25.4%と最も高く、40歳代以降は年代が上がるにつれて減少する。

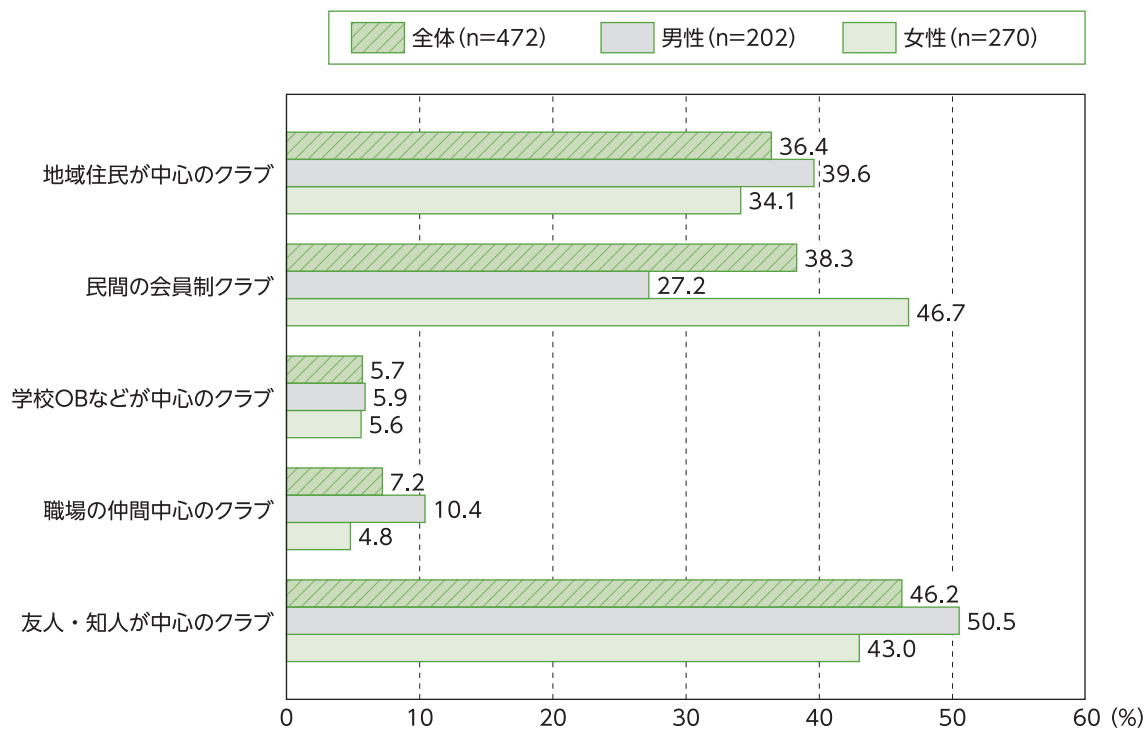
加入希望者に対して加入したいスポーツクラブの形態をたずねた（図3-8）。全体では、「友人・知人が中心のクラブ」が46.2%、次いで「民間の会員制クラブ」38.3%、「地域住民が中心のクラブ」36.4%となった。

性別にみると、男性では「友人・知人が中心のクラブ」が50.5%と最も高く、次いで「地域住民が中心のクラブ」39.6%、「民間の会員制クラブ」27.2%であった。一方、女性では「民間の会員制クラブ」が46.7%と最も高く、「友人・知人が中心のクラブ」43.0%、「地域住民が中心のクラブ」34.1%と続き、男性と女性では加入を希望するスポーツクラブの形態に違いがみられた。



【図3-7】 スポーツクラブ・同好会・チームへの加入希望(全体・性別・年代別)

資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2016



【図3-8】 加入希望者の今後加入したいスポーツクラブ・同好会・チームの形態(全体・性別:複数回答)

資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2016